

令和4年度社会保険労務士試験

合格者6名！！

山下 千博さん 中尾 真美さん 窪 裕章さん
日高 泰治さん 遠矢 兼明さん O Mさん



● 社会保険労務士試験合格体験談

令和4年度試験合格

山下 千博さん

「努力は嘘をつかない」

毎日コツコツと勉強を積み重ねていくことが苦手な私は、あまり好きな言葉ではありませんでした。自分で言い訳を作って、机に向かわない日もしばしばあったくらいの気分屋な自分から、目が覚めて勉強に励んだ自分を、合格がわかった瞬間に生まれて初めて褒めたような気がします。今では座右の銘です。私は7回目の受験で合格できました。最初は独学でなんとなく試験を受けていました。

問題読んでもさっぱりわかりません。そんな中、SRの講座に出会いました。

辻先生を信じて、勉強を続けていけば、合格はすぐそこです。私は、あと何かが1点足りないという年が、去年、一昨年と続きました。相当悔しい思いをしましたが、「遂に1点ラインにきたか」と気持ちを切り替えていきました。

昨年までは講座での予習復習も甘かったと自己反省もあった為、今年は「講座を受けてたらなんとかなる」の受け身から、「講座を利用しながら自分の知識を深めていこう」の前のめりな気持ちで試験当日ま

で臨んでいました。

さて、勉強方法の紹介です。

1. まずはテキストに、ひたすら辻先生の講義での解説を書き込んでいったり、自分で間違えそうだなーって箇所に印をつけていったりしました。(一つのテキストを耕していくイメージ)

2. 過去問用ノートを作って、二周目以降は間違えた箇所は、前回も間違えていないか？(反復しても同じところを間違えていく不思議現象あり)の繰り返しで過去の自分と格闘。

論点の理解が難しいなと思うところは、よく先生の気持ちになりきって、家で一人で講師ごっこをしました。笑

不思議と問題解きながら、辻先生が憑依することがあるので個人的におすすめです。

3. 直前期は全科目の論点を回していくこと中心でしたが、選択肢対策は『合格のツボ』という問題集を購入して解く→テキストで復習→自分で語呂をつくるの繰り返し。

(申請とか許可とか認可とか似たような言葉が多い。任意ときたら認可、とか基金認可とかおまじないのように唱えたりしてた。)

多忙な中での試験勉強ですので、時間作りには自分含めた受講生全員が苦勞してきた道だと思います。

私は社労士事務所で実務を約7年していますが、やはり試験勉強は全くの別物です。社労士事務所に勤めた方がいいのか問題は、人によるというのが自分なりの結論です。昨今は実務経験者に有利な問題も出題されていますが、社労士事務所は8月の試験前に怒涛の繁忙期があります。これから社労士事務所に勤めながら、合格を目指していかれる方は参考にしてください。

最後に、私は辻先生、山野先生をはじめとした講師の方々の熱心な分かりやすい講義で、勉強の面白さと、答練や模試で点数がとれなかった時の悔しさを知りました。同じ教室で講座を受けた受講生の皆さんにもとても大きな刺激をもらいました。自分一人では絶対に成し得なかった合格です。関わってくださった皆様に改めてお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

令和4年度試験合格

中尾 真美さん

私は、社労士試験を初めて挑戦したのは、2012年度です。今回2022年度の試験合格まで約10年経ちました。

この試験を受けるきっかけとなったのは、従前に働いていた年金事務所での社会保険労務士の方々との出会いや、実際年金事務所の窓口で働いている中で、知らないことで損している方を多く見てきて、「国の情報を正確にわかりやすく伝える」仕事ができればと思ったことでした。

最初の受験は二人目が生まれて7か月目での試験でした。この年は独学で一日3～4時間ほどでしょうか。結果択一でも37点以上とれ、選択でも23点とまずまずの結果でした。

その後働き始め、その後の8年間ほどは独学で勉強し、いつも4月くらいから勉強を始めて、通信をした年もあり、ほとんど勉強していない年もありました。この期間は自分なりに頑張っても初回程点数を取ることが出来ませんでした。

そんな中で、ここ2～3年は社員へ60歳時の働き方や在職年金制度、失業給付等についての社会保険相談会を実施しており、社員の相談を受けている中で、私の知っている情報もネットでは調べて案内しますが、資格もなく説得力もないなと思っていた頃、会社の若手社員が建築士の試験を受けるため、年間100万円程かけて専門学校に通っている話を聞いて、それまで、あまりお金もかけず、近頃は記念受験みたいに受けていた私にとっては衝撃的な出来事でした。

同僚達がきちんと資格を持って責任をもって仕事をしている姿をみて、自分もしていることにきちんと責任をもって社員の管理・サポートをしていきたいなど本気で考えるようになりました。

そんな時、会社で「月間社会保険」でSR講座の案内をみて、もう一度、一から勉強のやり方を見直そうと思い、申し込みをさせていただいたのが2021年度の受講でした。受講に12月から参加させていただき、勉強時間の短さや、過去問の取り組む回数等、それまでの勉強内容とは大幅に違うことにびっくりし、こちらの受講の流れに乗ってみて、言われた通りに勉強してみようと一年間がんばりました。結果は択一が43点、選択が25点とあと一歩でした。それでも大きな成長を感じた年になりました。

2022年度の受講については、昨年1年大隅から鹿児島市内に通っていたことや、子供の高校受験もあり、なかなか試験に足が進みませんでした。今年、今年度の社労士試験の案内をみたとき、インターネットで簡単に申し込みができることや主人が応援してくれたことから、5月中旬より勉強を開始しました。今年は勉強時間が短かったのですが昨年の基礎や答練の試験を繰り返し行ったことで、7月末までは蓄積期間とし平日3時間土日5、6時間程度勉強していましたが、睡眠と体力の限界で8月の2度目の模試では疲れ切っており点数も伸びませんでした。それでも、その後8月試験までとにかく過去問を繰り返し、間違えたところは書いてインプットすることを続けて試験に挑みました。

あと、昨年は試験中に体調不良で席を少し離れてしまった経験がありましたので、今年は体調良く試験を受けるために、試験3日前から仕事も休んで、マッサージに行ったり、早めに家の掃除をしたりしてゆっくり過ごしました。当日も体にストレスをかけないようゆったりした服装で、焦らないためにテキストもほぼ見ませんでした。あと、回答の訂正はしませんでした。

SR講座を受講したことは、私にとって転機になりました。独学では絶対合格していなかったと思います。

資格取得後もまずは会社のためにできることを探して、将来地域で社労士としてできることを模索していきたいと思っています。先生方、事務局の方々大変お世話になりました。ありがとうございました。

令和4年度試験合格

日高 泰治さん

辻先生、鹿児島SR経営労務センター山野会長はじめ事務局の皆様、3年間の講座受講生のみんな、今回の合格に際し最大の感謝を申し上げます。

1年目は掴みどころのないまま受験、足切りに泣きましたが「何となく自信」を得ることができました。2年目、そこそこの自信はあったが何となくやり残し感を抱えたまま受験、またも足切り。3年目、とにかくやり残したものを先に済ますため9月に入ったらスタート。長期計画を立て、やることを絞り日々実行。前日は余裕をもって熊本入り出来ました。直前のTAC全国模試の結果には落ち込みましたが、、、

この3年間を振り返ると、1年目は知っていることはできるが忘れてしまっていること、曖昧な記憶が不合格の当然の結果だったのかな。2年目は各法令の全体像を踏まえた知識の集積ができたように思えます。3年目は背水の陣、とにかく万全の準備を心に突き進む毎日でした。試験が終わった瞬間に脱力感を覚えるほどでした。

私のこの1年間の勉強法は、とにかく最初で社一・労一を過去問ベースでマスターすることに努め、とにかく過去問・テキストの振り返りを繰り返すことから始めました。社一の保険法御三家、社労士法は択一对策、その他は選択式対策に重点を置き、労一は労働契約法に択一对策、その他は選択式に重点をおきメリハリがつくように取り組みました。その後は、SR講座のスタートを契機として各法令講座をベースに、一方では他の法令の過去問をすることで忘却の嵐を凌ぐ。講座の配信はとにかく利用しまし

た。12月から労基法①②の講座スタート、翌週講座配信を利用し復習（1.5倍速、2倍速で時間短縮）と健保法の過去問をこなす。翌週は労基法③④の講座、配信による復習、国年法の過去問をこなす。労基法の講座が終了する頃、労基法の過去問が巡ってくる。といった具合に1週に1法令の過去問を必ずやることで土台づくり（忘却対策）に努めました。過去問は過去問ランドをとにかく利用しました（3巡くらいは折角購入したのでテキストです）。過去問ランドの機能を利用し、「一問一答-範囲順」で復習をするつもりで、「一問一答-ランダム」で実力の確認のつもりで。最後は、「実践テスト」で時間感覚の醸成。最後の2~3カ月は、「到達度テスト」・「直前答練」で「半分」を確実に取りに行く。過去問ランドで間違っただけの一問一答「弱点出題」で再確認し補強する。

試験日になるまで「不安」が無くなることはありませんでした。特に、選択式対策への不安は最後まで重く。選択式トレーニング問題集を買い、出来たり出来なかったり、焦りました。「法令に係る選択式がこんなじゃ」今年もダメか！「あ〜、労一・社一は、、、」。ただ、これもあれも一度はやった、計画通りにすすめてこれている。辻先生の選択式対策の提供された資料はとにかくやった（「選択式は当たるんです。」辻先生の言葉は力になりました）。

試験当日、「出来高」は4割でした。残り6割は100%自信があるわけではなく、また勘に頼るものもありました。結果、「合格」を頂きましたが、やってきたことが間違っていなかったのだらうと思います。「自信をもってやってきたことが実になった」のだと思います。

「当日の精神状態はいつもと違う」何度となく辻先生から投げかけられた言葉です。「いつもどおり」、講座で学習している集中力が当日発揮出来る人が合格に近づく。極論、ほんの一瞬でもいいのです。

最後に、やっぱりいいですよ、先生の語呂合わせ。

令和4年度試験合格

O. M. さん

1. はじめに

この度、令和4（2022）年度社会保険労務士試験に4回目の挑戦で合格することができました。拙い体験談ではありますが、皆様のお役に立てればと思いこの体験談を書くことを引き受けさせていただきました。

2. 受験のきっかけ

ネットなどで調べると士業は「苦しい」「食えない」という声が多く躊躇しました。しかし、現在の職場の経営状況を考えると独立開業できる資格を取得する必要性に迫られていました。そこで、すでに50歳を過ぎていましたが、働きながら挑戦することを決めました。

3. 受験前の想定

合格率等から考えると働きながらであっても年間の勉強時間は少なくとも1000時間程度、月間80~90時間程度は確保すれば、独学でも大丈夫だろうと思っていました（これが誤りでした！）。

4. 受験歴・結果

（1）2019年4月~2020年8月／1回目の受験：令和元（2019）年度試験
ユーキャンのテキストと問題集を買い独学で始めました。約5か月の準備期間、勉強時間は1か月当たり60時間前後。結果はもちろん「不合格」。

（2）2019年9月~2020年8月／2回目の受験：令和2（2020）年度試験
1回目と同じテキストを使用。勉強時間も同じ程度。またしても「不合格」。この時点で敗因は独学の無謀さにあることに気がきました。

（3）2020年9月~2021年8月／3回目の受験：令和3（2021）年度試験

2020年の年末の講座から鹿児島SRをDVD受講させていただいたと思いますが、同時期に他の受験予備校の定額制の通信教育を受講していました。とりあえず2つ受けて合っている方を選択しようと考えたためでした。この時点で経済的コストよりも効率を重視していました。

すぐに辻先生の講義のすばらしさに気づき鹿児島SRに絞りました。

そして、令和3(2021)年度試験を受験。しかし「不合格」。全体の点数は合格ラインでしたが、基準点に満たない科目がありました。受験当日の自分の状況を振り返りました。私は本試験の問題文の独特な固い言い回しに慣れず、問題文を読んでもすぐに意味を把握できませんでした。そのため「考える」時間を失っていました。

それに対して、受験テキストは初学者も対象にしているので、表などを多用しうまくまとめられている。その分テキストだけを読んでいてもなかなか本試験の問題文を読みこなすことができない。

結論として本試験の言い回しに慣れるために「過去問」をできるだけ多く解くしかないが、知識の穴を少なくする必要があるので、次のような方法で臨みました。

(4) 2021年9月～2022年8月/4回目の受験：令和4年度(2022年度)試験

まず、9月～翌年6月までは勉強時間を1か月50時間程度確保し、DVD講座の視聴、テキストの精読を行いました。

次に、7月～8月に集中的に過去問を解きました。

解くときは、出題者の意図を考えつつ解き、間違っても気にせず、テキストの該当箇所を確認するだけに留め、何故自分は間違えたのかを考えました。

直前の1週間はテキストの重要度の高い箇所の読み込みを行いました。

本試験では選択式・択一式とも時間が余りました。特に午前中の選択式で時間が余り早めに退出してテラスのようなところで昼食を摂ることができ択一式の対策をする時間がとれたことは午後の部に向け精神的な安定につながりました。

5. これから受験を始める方へ

ここまで読んだ方にはお分かりいただけると思いますが、やはり独学は危険です。テキストを噛み砕いて教えてもらう必要があります。その点鹿児島SRの辻先生の講座は素晴らしいと思います。

来年の合格を心よりお祈り申し上げます。

6. 最後に

ここまで来られたのは鹿児島SRの辻先生並びに他の先生方、スタッフの皆様の皆様のおかげだと思います。本当にありがとうございました。

また、応援してくれた人に感謝を伝えたいです。「本当にありがとう！」

令和4年度試験合格

窪 裕章

鹿児島SRで良かったと思う事は、先ず、辻先生の授業が分かり易かったこと。次に、試験当日の選択式が終わった後の昼休みに、鹿児島SRで共に勉強した友人に会えて、何か元気づけられて、午後の択一式に向かう一番の気分転換になったことです。

1.なぜ、社労士を目指したのか？

このままでは、この先の人生が楽しくなさそうと思ったことがあり、以前お世話になった上司に相談したときに薦められました。初受験は平成30年でした。そこでは、年金科目が仕上がらず、惜しい点数でした。

翌年の令和元年からあと1点で不合格が続き、その悔しさがエネルギーの源泉になりました。合格が

近いほどプレッシャーが大きくなり、選択式が年々怖くなりました。

2.勉強法について

受験年数の割に択一式の点数が伸びなかったのが、今年は直前期にテキスト読み重視から問題演習重視に変更しました。

試験まで長丁場です。1月から答練が始まりますが、1位を目指して勉強していました。中だるみがなくなりました。類は類を呼ぶので強力なライバル（＝刺激を貰える相手）も見つかりました。

3. 本試験の心境は？

選択式は、雇用保険で、最初に書いた答えを、根拠が弱いと思って、終了10分位前に変更したこともあり、不安でした。

択一式は、年金科目から先に解くのですが、年金は論点ごちゃ混ぜの問題が多くて、「場面が違う」で判断しました。健保が難しく、労災側の徴収も難しく、安衛が優しく、隔年で難しくなったり優しくなったりのいつものパターンかと思って解いていました。一番最後に労基安衛を解き終わって1時間程余ったので、一撃で正誤を判断したので読んでいない残りの肢（えだ）を確認していきました。

「？」の使い方 試験は○と×ではありません。択一でボーダーラインから脱却できたのは、○寄りの？か×寄りか？かの「？」の使い方が上手くなったからだと思います。

妻や両親にはとても迷惑をかけました。5年間も勉強させてもらって感謝しかありません。ありがとうございました。

